

令和 8 年 7 月 2 日
政 策 経 営 部

令和 7 年度 せたがや自治政策研究所 研究・活動について

1 主旨

せたがや自治政策研究所の令和 7 年度の研究・活動報告を取りまとめたので報告する。

2 研究・活動報告

令和 7 年度は、「せたがや自治政策研究所 2 か年計画」（令和 6 年 2 月策定）に基づいて、調査研究などに取り組んだ。

主な取り組み内容は、【別紙 1】のとおり。

3 周知等

（1）研究活動報告会の開催（[世田谷区 HP](#)）

①日 時：令和 8 年 1 月 20 日（火）午後 1 時 30 分から午後 5 時

②会 場：教育総合センター たいよう

③テーマ：参加してみたいキモチをカタチにしよう
ーともに考える地域参加のデザインー

④内 容：せたがや自治政策研究所の研究発表
有識者によるディスカッション
グループワーク

⑤参加者：23 名 一般参加（区内外在住者）11 名、世田谷区職員 12 名

（2）「せたがや自治政策 Vol.18」の発行

「せたがや自治政策 Vol.18」を取りまとめ、[世田谷区 HP](#)で公開している。

4 調査研究結果から

「地域生活とコミュニティに関する調査 2024」分析結果概要【別紙 2】

令和7年度 せたがや自治政策研究所における主な取り組み

【別紙1】

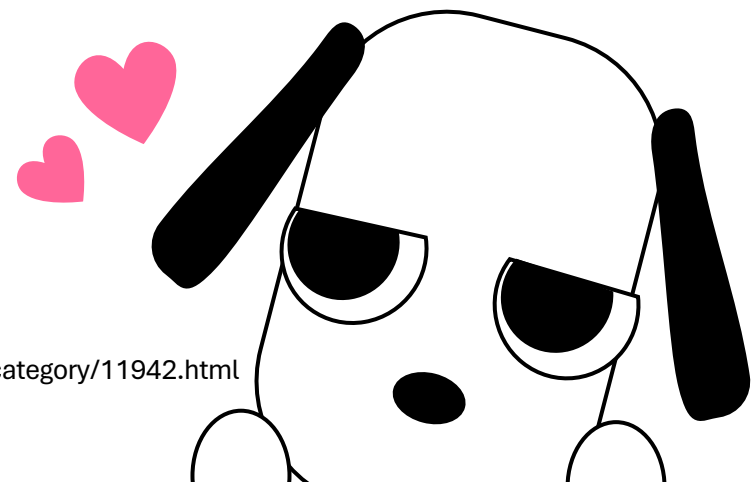
No	分類	項目	内容
1	調査研究	地域コミュニティの実態に関する調査研究	・「地域生活とコミュニティに関する調査 2024」調査報告書
2			・クロス集計等の結果報告
3			・世田谷区における地域活動参加者/非参加者の属性把握と地域活動への参加につながる要因の探索 ——「地域生活とコミュニティに関する調査 2024」の調査結果を基に——
4			・世田谷区民における町会・自治会に対する認識と共同防衛に対する意識
5		自治権拡充及び地方分権に係る調査研究	・世田谷区における住民と地域の関わりの強さ（コミュニティ・モラル）に関する分析 ——コロナ禍後の変化と「人とのつながり」・「行動」との影響について——
6	人材育成 情報発信	せたがや版データアカデミーの開催	・自治権拡充の事例として児童相談所を取り上げ、資料収集、勉強会、ヒアリング、資料収集を実施
7		庁内オープンゼミの開催	・データを利活用した政策形成手法の習得を目的とした、EBPM に関する講義・演習を庁内職員向けに実施 (全5回)
8		地区を基盤としたデータ整備 (世田谷区HP)	・庁内における人材育成とコミュニケーションの活性化を目的に、文章術・質的調査、仮説思考、統計分析 の4種類のゼミを実施
9		学術機関誌「都市社会研究」の発行 (世田谷区HP)	・社会増減ダッシュボードを作成
10		研究活動報告書「せたがや自治政策」の発行 (世田谷区HP)	・特集テーマに沿った研究者の論文寄稿、査読付投稿論文、活動報告
11		研究所広報誌「Newsletter」による情報発信 (世田谷区HP)	・No.18 の特集テーマ「気候変動と災害」
			・令和7年度の研究所の研究活動を報告書として発行
			・随時発行（4回）
			・庁内版をイントラネットで公開、庁外版を区ホームページで公開

【別紙2】

地域生活とコミュニティに関する調査2024 分析結果概要

せたがや自治政策研究所

<https://www.city.setagaya.lg.jp/kuseijouhou/seisaku/category/11942.html>



目次

0

2024年度調査の概要

1

世田谷区における地域活動者/非参加者の属性把握と地域活動への参加につながる要因の探索

2

世田谷区民の町会・自治会の認知と加入認識

3

世田谷区における住民と地域の関わりの強さ（コミュニティ・モラル）の傾向に関する分析

0

2024年度調査の概要～目的・期間など～

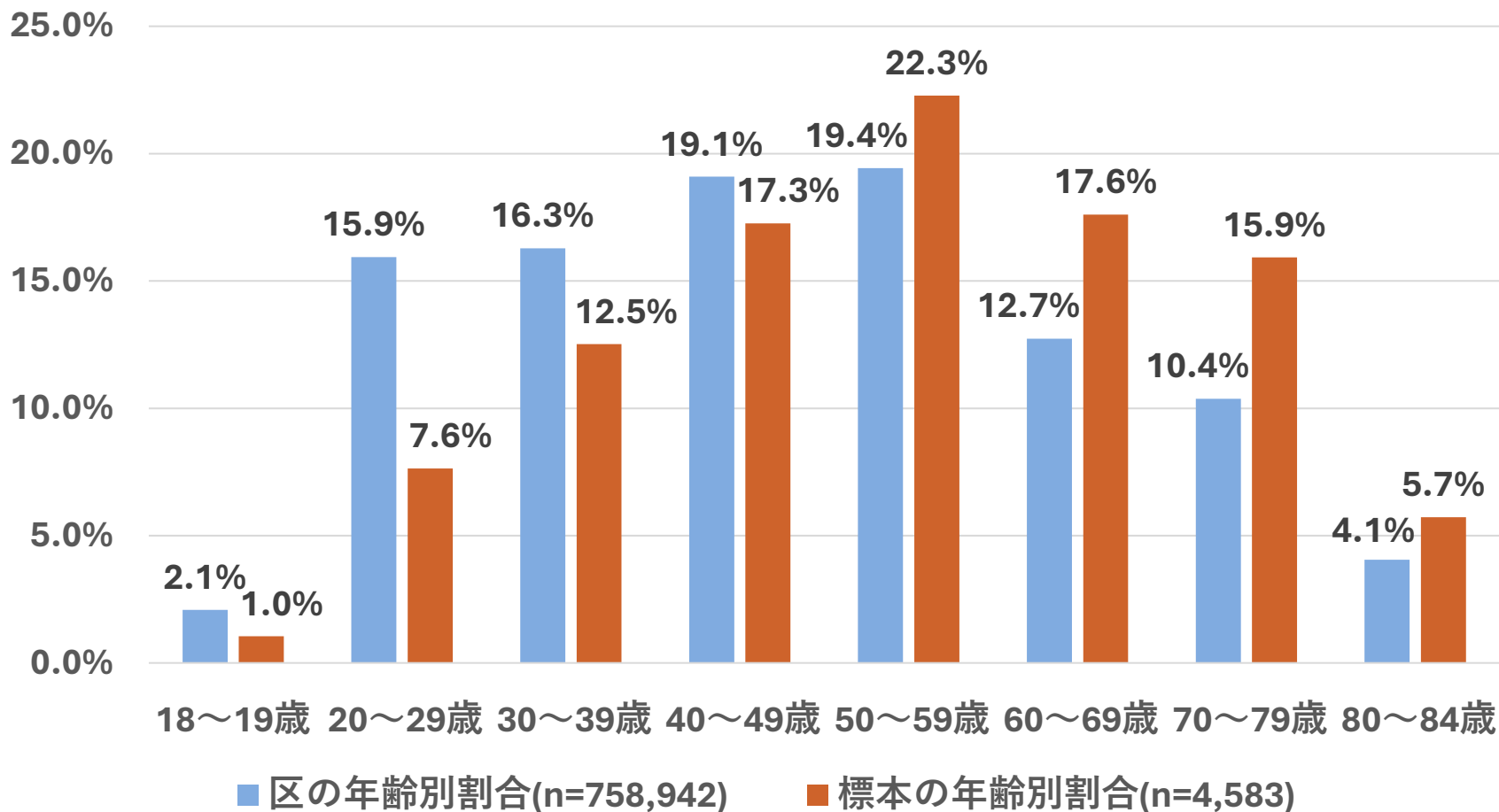
地域生活とコミュニティに関する調査2024

調査目的	地域社会における人との関わりと地域活動の実態の把握
調査期間	2024年10月1日～10月30日
対象者	2024年8月1日時点で住民基本台帳に登録されている 18歳以上85歳未満の世田谷区民12,000名（外国籍含む）
有効回答数（率）	4,614件（38.4%）
抽出方法	単純無作為抽出
調査方法	郵送法 （調査票を対象者宅へ郵送で配布・回収する方法）
設問数	55問

0

2024年度調査の概要～区全体と標本の構成比較～

年齢（10歳毎）

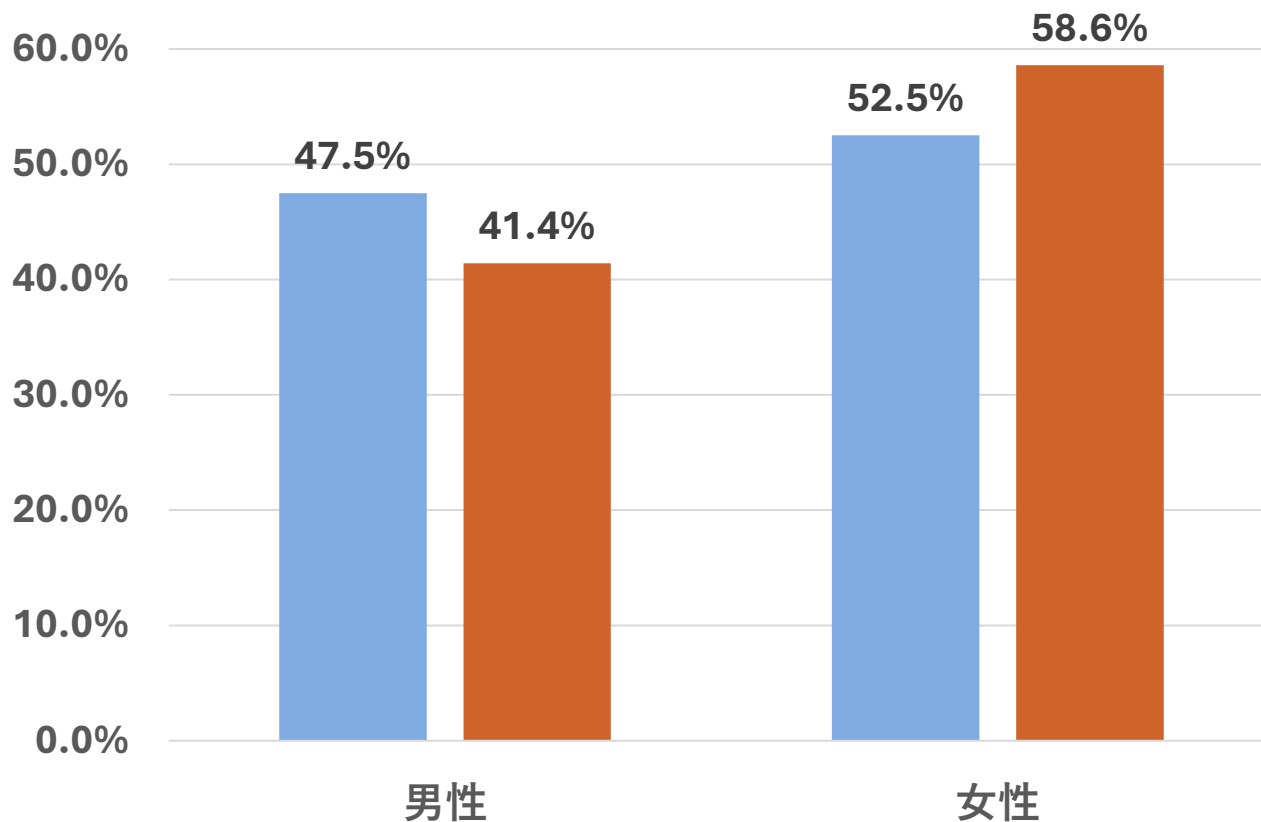


※区の人口は、2024年8月1日時点の住民基本台帳を基に作成。

0

2024年度調査の概要～区全体と標本の構成比較～

性別



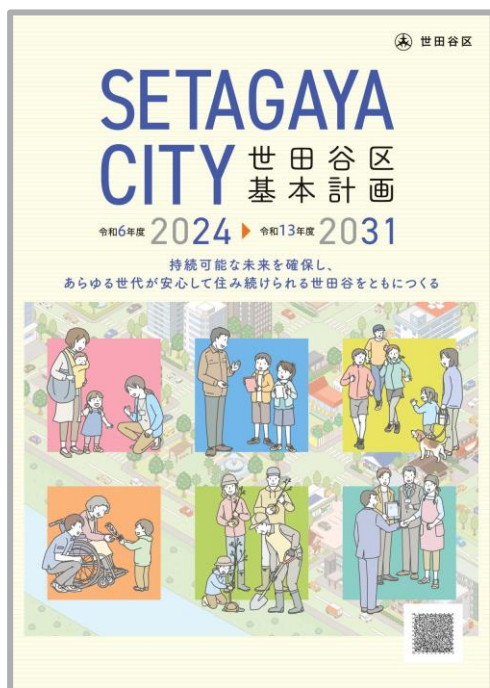
■ 区の年齢別割合(n=758,942) ■ 標本の性別割合(n=4,581)

※区の人口は、2024年8月1日時点の住民基本台帳を基に作成。

1

世田谷区における地域活動参加者/非参加者の 属性把握と地域活動への参加につながる要因 の探索

1-1 本研究に至る背景と目的



区民生活について

人とのつながりの希薄化や町会・自治会への加入率低下が進む中、コロナ禍の長期化による**地域コミュニティの分断**への追い打ちで、社会的な孤立や孤独が大きな問題に。

区政が目指すべき方向性

豊富な地域人材・地域資源との連携強化により**参加と協働**のさらなる促進を図りながら、あらゆる世代が安心して住み続けられるまちづくりを！
自ら地域をつくり支える存在として区民を位置づけ、参加意欲を引き出すコミュニティづくりへ！

…基本方針の一つである「**参加と協働**」の推進に資するため、

- ✦ **地域活動に参加する層/しない層の属性を把握し、その特徴を捉える。**
- ✦ **各層を比較し、地域活動参加の要因を探索する。**

1-2

分析対象となる層の分け方

問20「あなたは、次にあげる(a)～(h)^{*}のお住まいのまちの活動をどの程度参加していますか。」

問21「今後、あなたは次にあげる(a)～(h)のお住まいのまちの活動に参加したいと思いますか。」

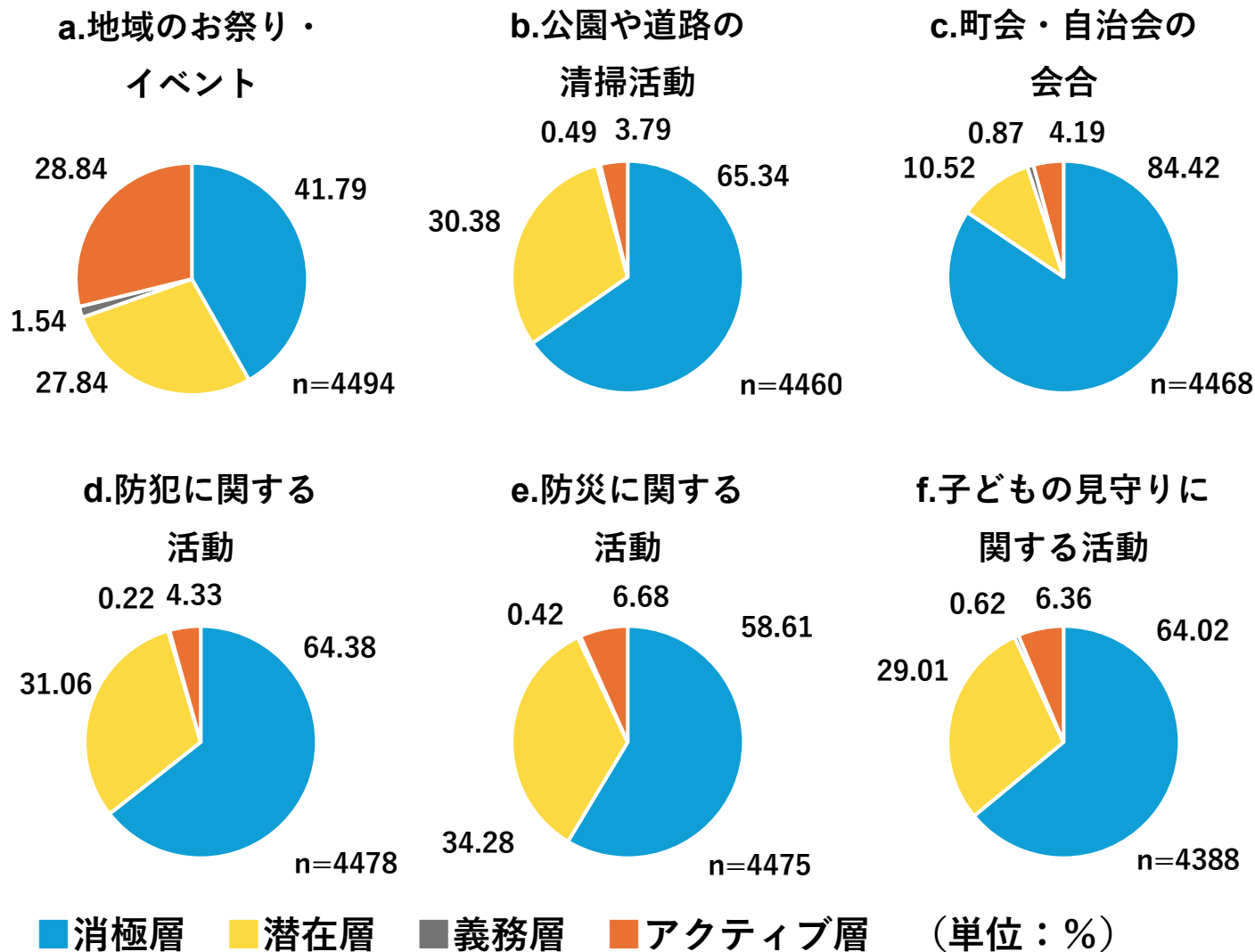
4択の選択肢を2択にまとめ、2×2の4つのグループに分ける。

問20(行動) 問21(意欲)		必ず 参加する	できるだけ 参加する	あまり 行かない	行ったこと がない
		参加する		参加しない	
参加したい	参加したい	アクティブ層		潜在層	
できるだけ 参加したい					
あまり参加 したくない	参加したく ない	義務層		消極層	
参加 したくない					

※(a)地域のお祭り・イベント (b)公園や道路の清掃活動 (c)町会・自治会の会合 (d)防犯に関する活動
(e)防災に関する活動 (f)子どもの見守りに関する活動 (g)国政選挙の投票 (h)地方選挙の投票
このうち、本研究では(a)～(f)を対象とする。

1-3

各層の基礎属性の把握～地域活動別4層構成比～



※nが異なるのは、a～fの各設問で欠損値の度数が異なるため。

1-4

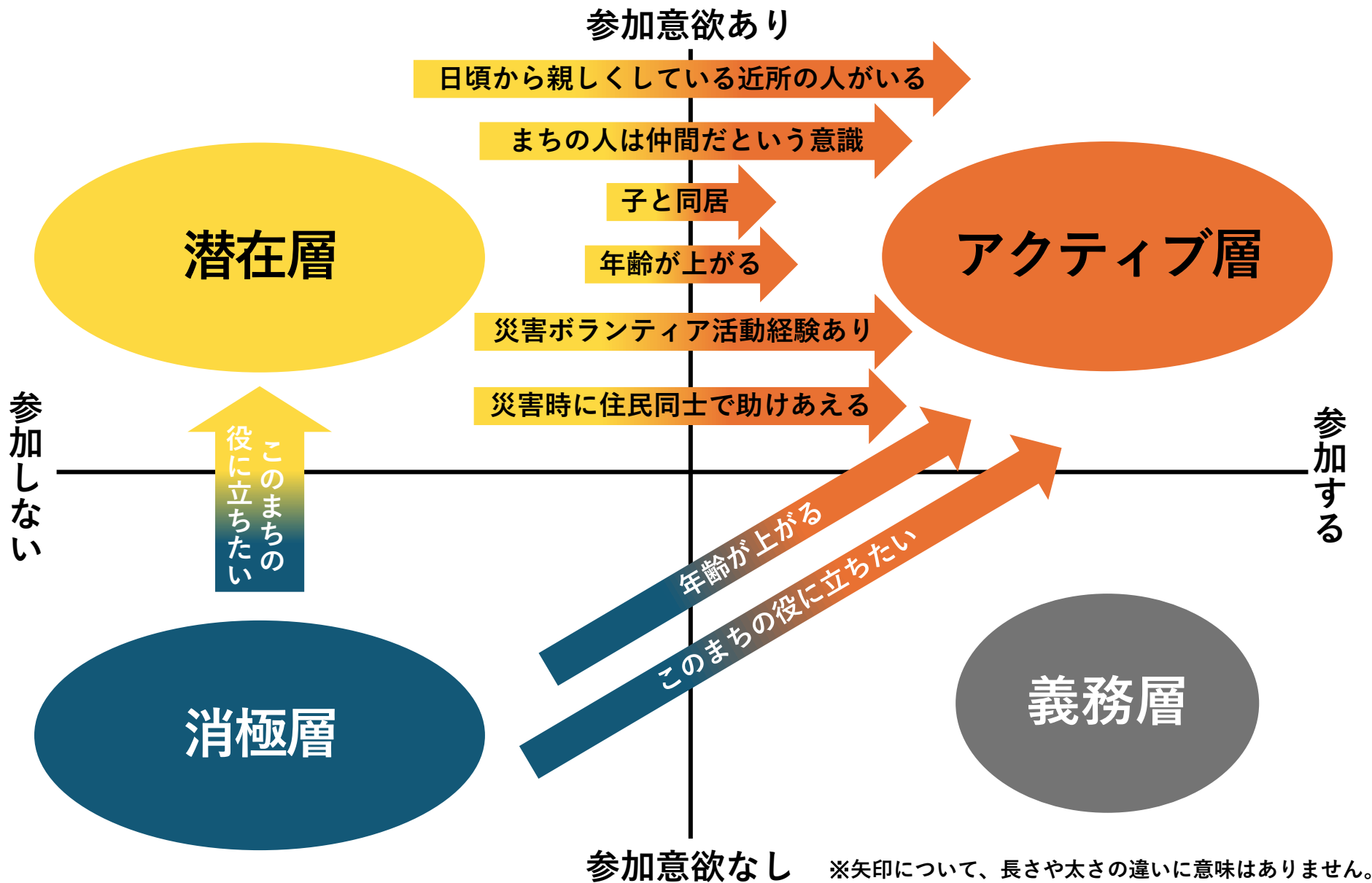
各層の基礎属性の把握まとめ

	アクティブ層	潜在層	消極層
年齢	70代以降が多い傾向	特徴や傾向は見られず	20～30代が多い傾向
性別	特徴や傾向は見られず	女性の方が多い傾向	男性の方が多い傾向
世帯構成	3世代世帯が多い傾向	夫婦と子ども世帯が多く、 一人暮らし世帯が 少ない傾向	一人暮らし世帯・ ひとり親世帯が 多い傾向

※ここでいう「多い」「少ない」は、絶対値としてではなく、この標本内における各年齢の割合、各性別の割合、各世帯構成の割合と比較しての表現なので注意されたい。

1-5

各層の傾向まとめ



※矢印について、長さや太さの違いに意味はありません。
また、層の変化を確定させるものでもありません。

2

世田谷区民の町会・自治会の 認知と加入認識

2-1 研究の目的

● 「町会・自治会非加入者」について考える

- 形式上の町会・自治会の加入率から非加入者像を捉えるのには限界がある。
- **町会・自治会に対する認知や、加入状況の認識**を把握できれば、各団体の加入促進活動に生かしてもらうことができる。
- 「地域生活とコミュニティに関する調査2024」からは、回答者の町会・自治会に対する認識状況を把握することができる。

➡ リサーチ・クエスチョン

「**町会・自治会に加入していないと認識している人は、
いかなる特徴を有しているのか？**」

2-2 研究の目的

- 「**町会・自治会非加入者**」には、どんな人が想定されるか。

《認知・非加入認識層》

- 住んでいるまちに町会・自治会があると認知したうえで、自身が町会・自治会に加入していないという認識している人

《非認知層》

- 住んでいるまちに町会・自治会があるのか、ないのか、認知していない人

《団体不在層》

- 住んでいるまちに町会・自治会がないと認識している人

∴ 本報告では《認知・非加入認識層》、《非認知層》に着目する。

2-3 研究の方法

● 2024年度調査「問18」、「問18-1」回答者のカテゴリーの整理

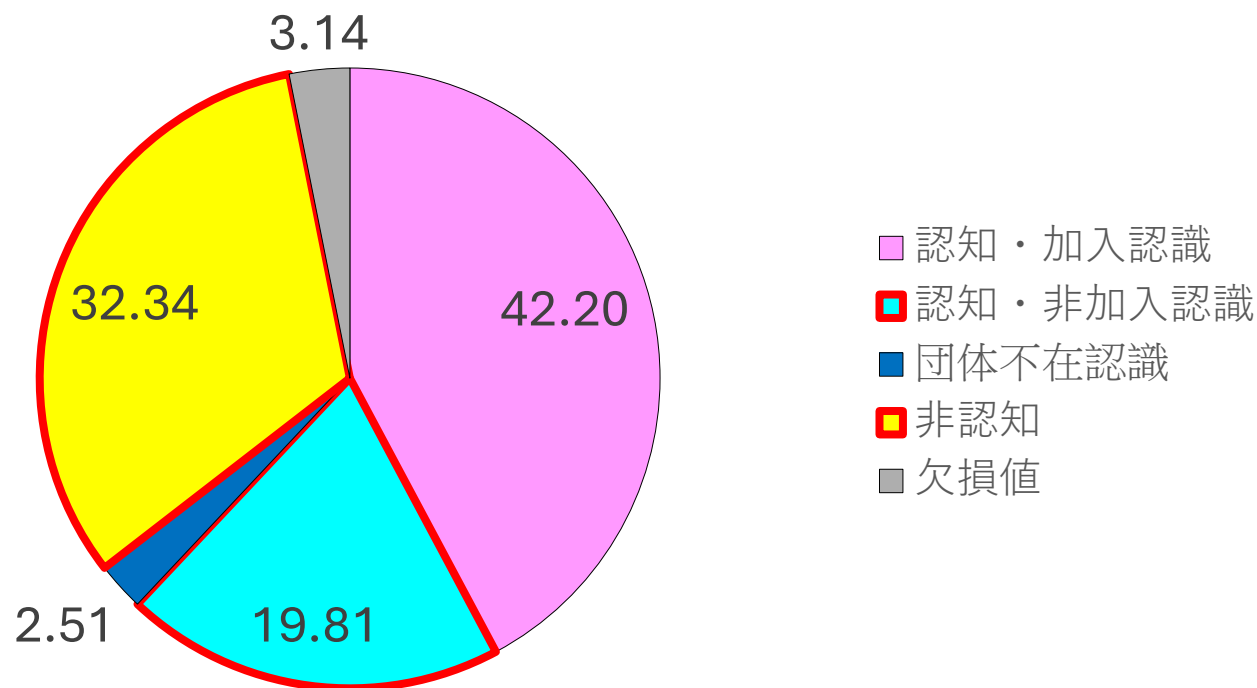
設問から 得られる情報	ある →加入している	ある →加入していない	ない	分からない
町会・自治会の 有無の認知状況	認知		非認知	
町会・自治会への 加入認識状況	加入	非加入		

認知・
非加入認識層

非認知層

2-4 全体における割合

町会・自治会の認知・加入認識状況(%)



※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳

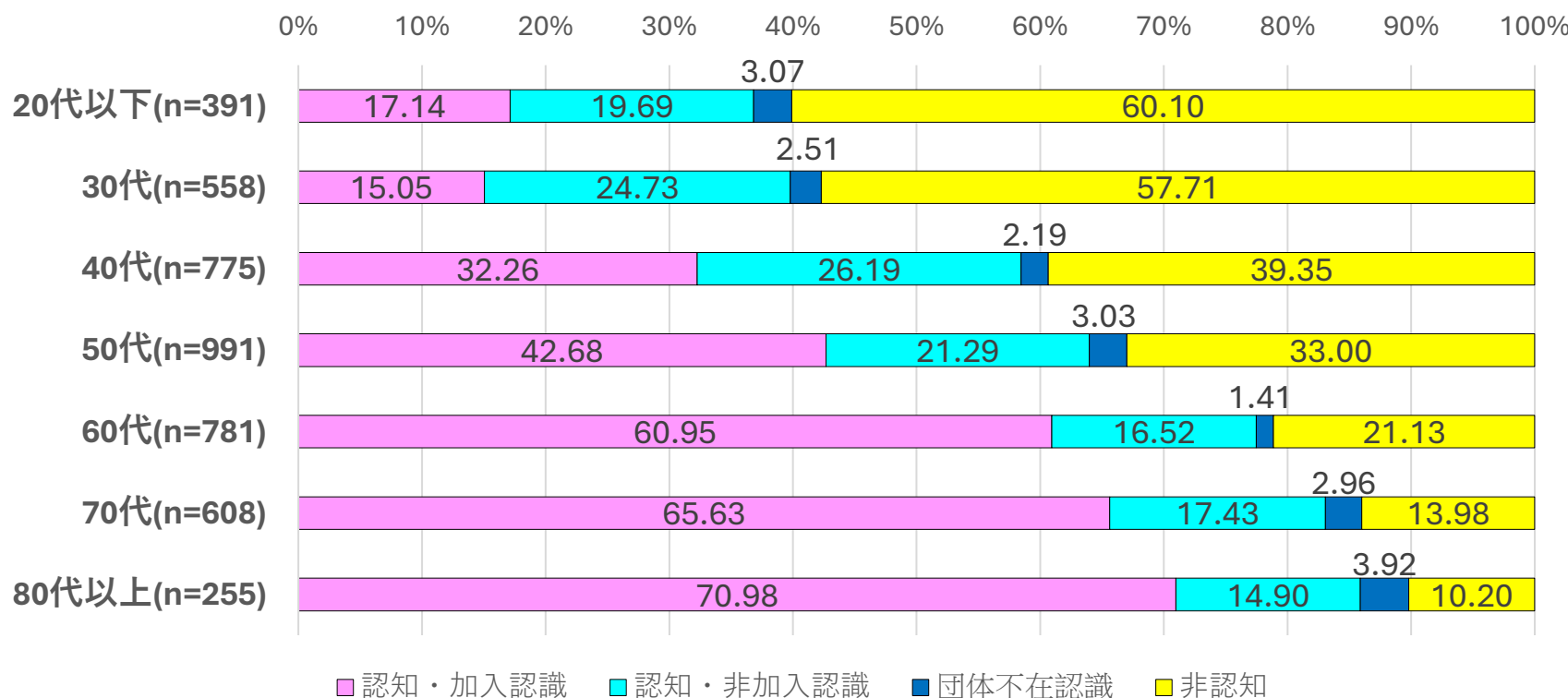
- 《認知・非加入認識層》は全体の約2割、《非認知層》は全体の約3割を占めている。
- 《非認知層》は《認知・非加入認識層》よりも割合が高い。

2-5

属性①

年代(10歳区切り)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

30～40代の世代の(現役世代)で多くなる。

《非認知層》

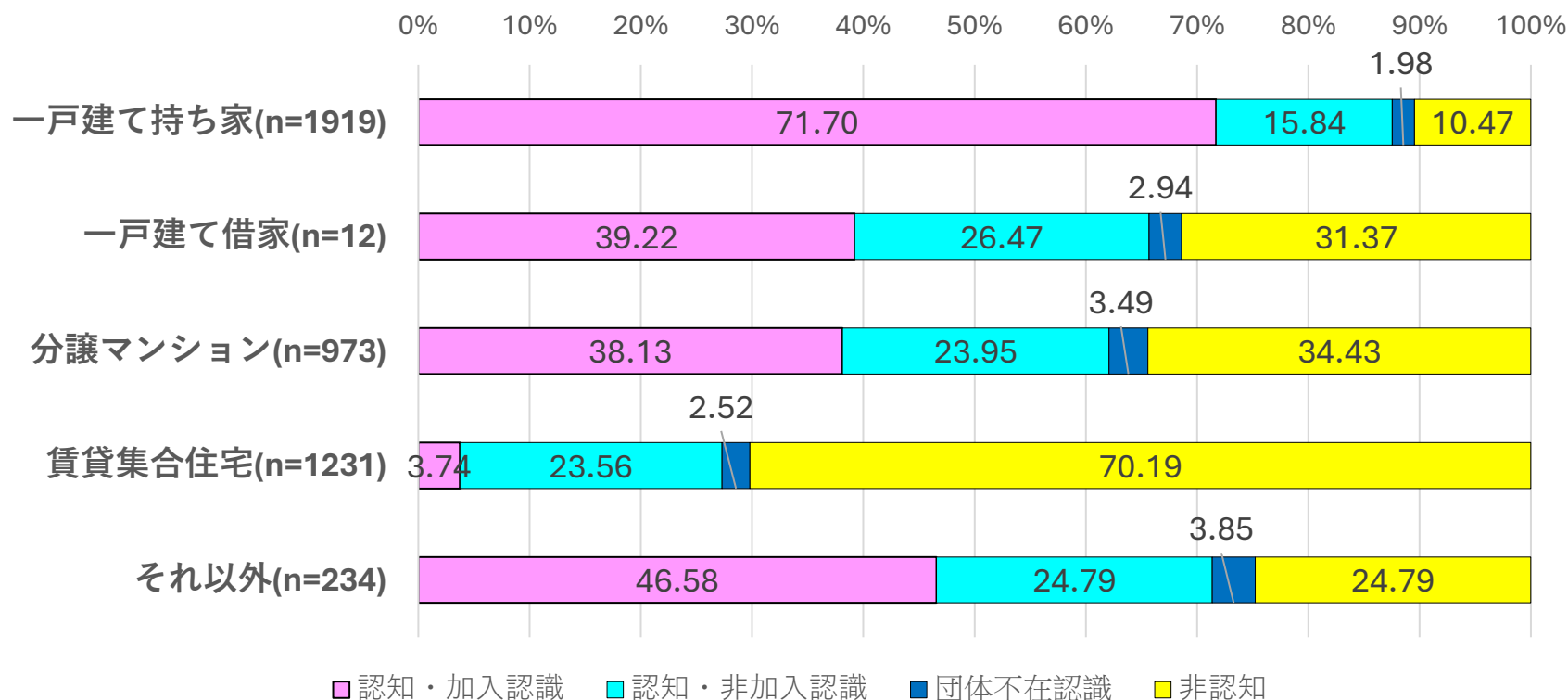
若年層になればなるほど、非認知層が増える。

2-6

属性②

住居形態(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

「一戸建て持ち家」で少ない傾向がみられる。

《非認知層》

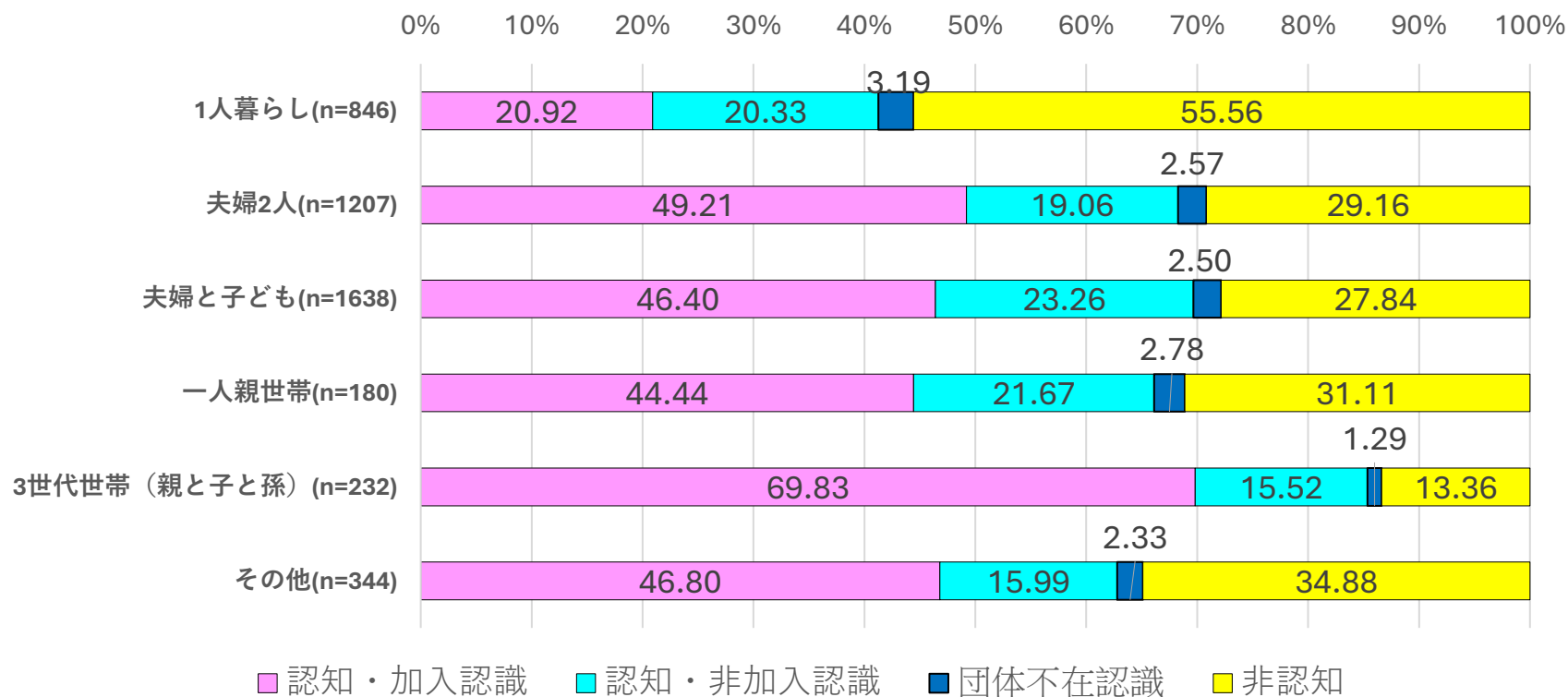
「一戸建て持ち家」で少なく、「賃貸集合住宅」で顕著に高い。

2-7

属性③

世帯構成(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

「3世代世帯」「その他」での割合が少ない傾向にある。

《非認知層》

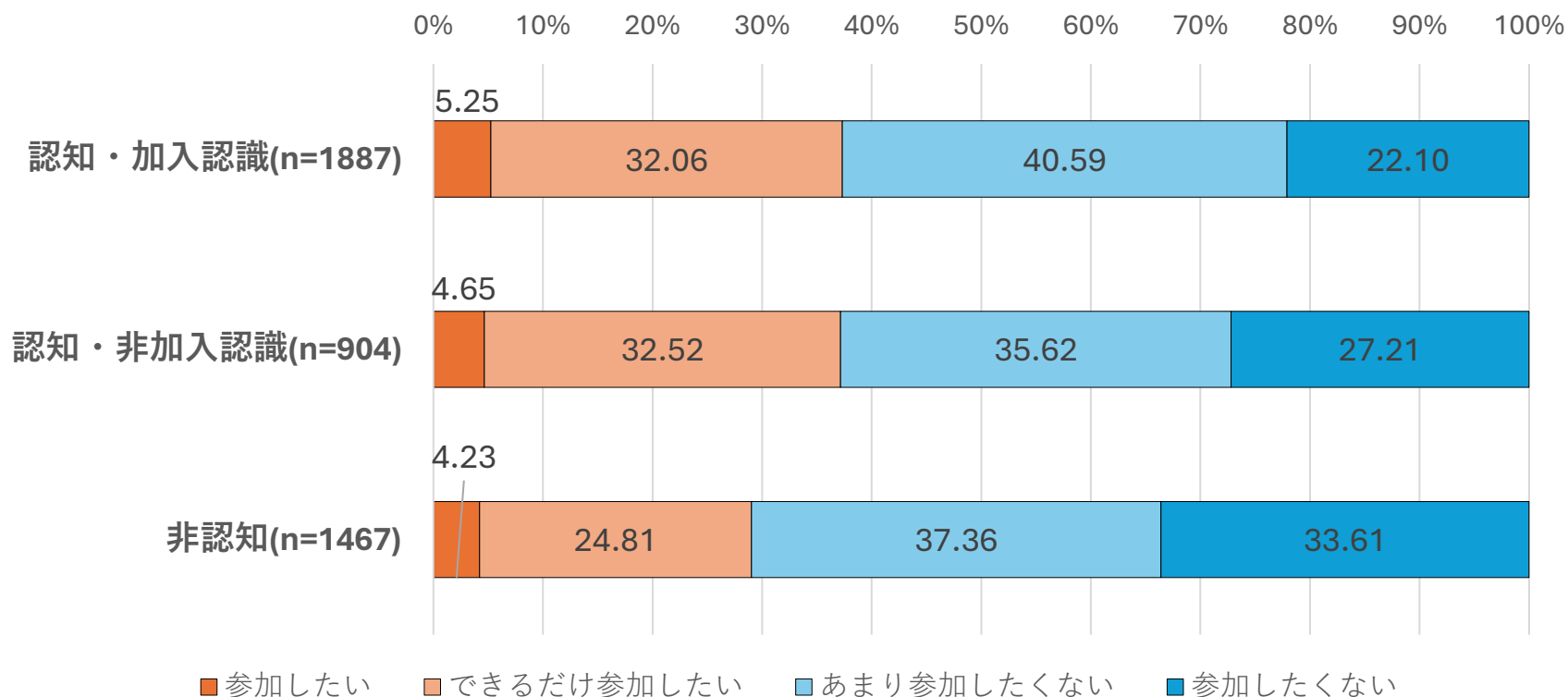
「1人暮らし」で割合が高い。

2-8

意識①

公園や道路の清掃活動への参加希望(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**37.17%**になる。

《非認知層》

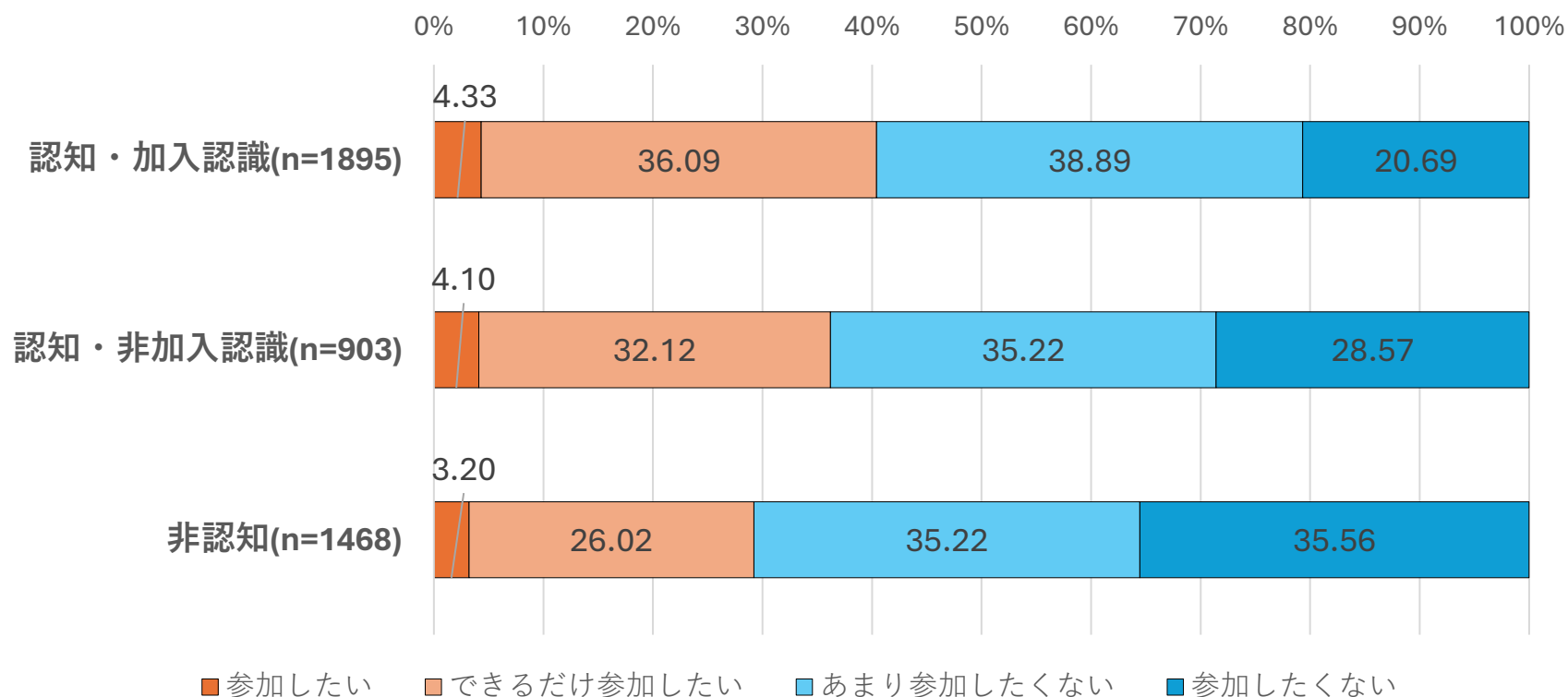
「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**29.04%**になる。

2-9

意識②

防犯活動への参加希望(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》

「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**36.22%**になる。

《非認知層》

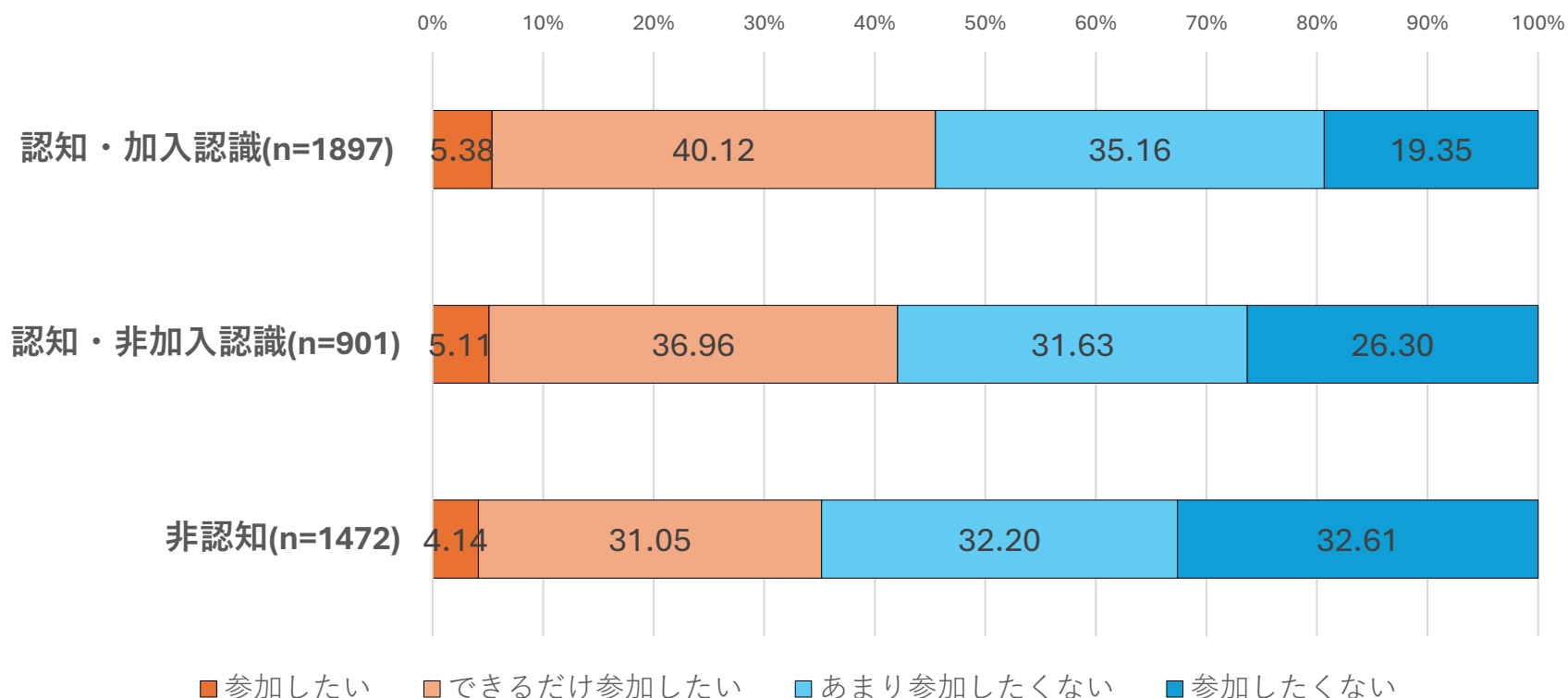
「参加したい」、「積極的に参加したい」の合計は、**29.22%**になる。

2-10

意識③

防災活動への参加希望(%)

※問18、問18-1のいずれも回答した回答者の内訳



《認知・非加入認識層》 《非認知層》

どちらも清掃活動や防犯活動よりも「参加したい」、「できるだけ参加したい」の合計が増加する。

2-11

まとめ①

認知・非加入認識層

● 属性

- ・ 年代別：現役世代で多く、シニア世代で少ない。
- ・ 住居形態：一戸建て持ち家が少なく、それ以外の形態ではいずれも25%前後で大きく変わらない。
- ・ 世帯構成：割合として三世帯世帯で少ない。

● 地域活動に対する意識

- ・ いずれの活動も参加希望者において、割合として認知・加入認識層よりも少なく、非認知層よりも多い。
 - 認知したうえで非加入の人であっても、地域活動に対する希望がないというわけではない。
 - 地域活動に関心がない人だけでなく、
 - * 町会・自治会に加入したくても加入までに至らない人
 - * 町会・自治会以外の形で地域活動に参加したい人も想定できる。

2-12

まとめ② 非認知層**● 属性**

- ・ 年代別：若年層ほど町会・自治会の有無を認知していない割合が高い。
- ・ 世帯構成：1人暮らし世帯において多く、三世代世帯において顕著に少ない。
- ・ 住居形態：一戸建て持ち家が顕著に少なく、賃貸集合住宅が顕著に多い。

→ 多世代間の交流が関係しているか？

● 地域活動に対する意識

- ・ いずれの活動についても、参加希望者が認知層(加入認識層・非加入認識層)よりも少ない。
 - とはいえ、いずれの活動についても非認知層は4人中1人の割合以上で、積極的な意識を持っている。

3

世田谷区における住民と地域の関わり の強さ（コミュニティ・モラル）の傾向 に関する分析

3-1 研究の目的

地域への「参加意欲」「愛着」「帰属感情」で表される住民と地域の関わりの強さ（コミュニティ・モラル）について

- ① コミュニティ・モラルの現状と推移の把握から、コロナ禍前後の変化を確認する。
- ② そもそも、コミュニティ・モラルは区民のどのような「人とのつながり」や「行動」に影響されているのか。

以上2点を検証するのが本研究の目的である。

「住民と地域の関わりの強さ」 (鈴木,1986)

(鈴木 広 社会学者・九州大学名誉教授)

※モラル (士気) ≠モラル (規範)

コミュニティ・モラルの構成要素

要素	概要
認知的要素 【知識】	まちの人が互いに協力しているという認知など
感情的要素 【帰属感情(愛着)】	まちの人との 仲間意識 やまちに対する 愛着 など
意志的要素 【参加意欲】	このまちのために 役に立ちたい という気持ちなど

※ 【】 内はせたがや自治政策研究所での言い換え

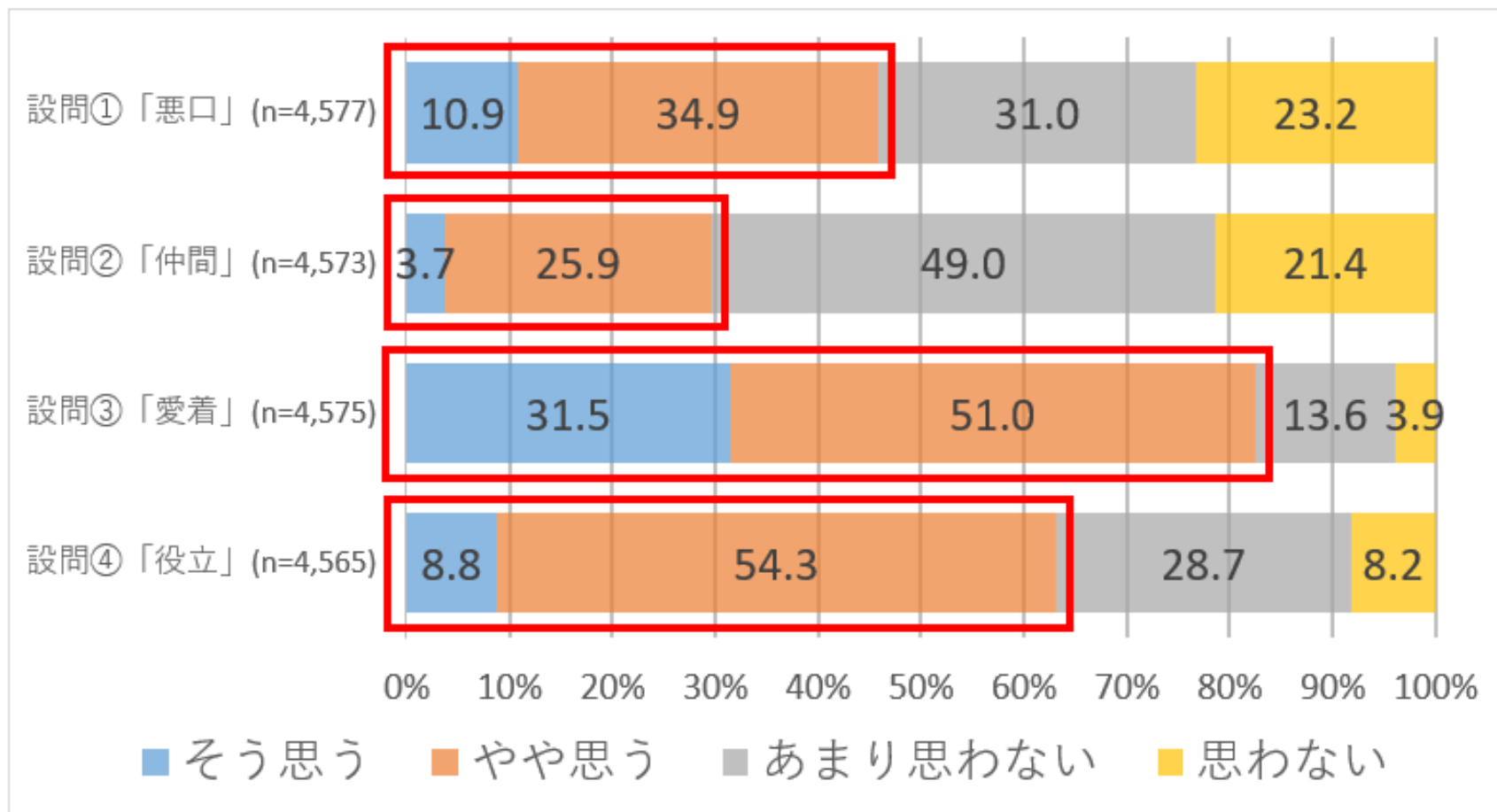
3-3 せたがや自治政策研究所における調査

「地域生活とコミュニティに関する調査」設問一覧
(2009年・2021年・2024年)

要素	設問	略称
帰属感情(愛着)	人からこのまちの悪口を言われたら、何か自分の悪口を言われたような気がする。	設問①「悪口」
帰属感情(愛着)	このまちの人たちはみんな仲間だという気がする。	設問②「仲間」
帰属感情(愛着)	このまちに対して愛着がある。	設問③「愛着」
参加意欲	このまちのためになることをして何か役に立ちたい。	設問④「役立」

※設問③のみ2024年から追加

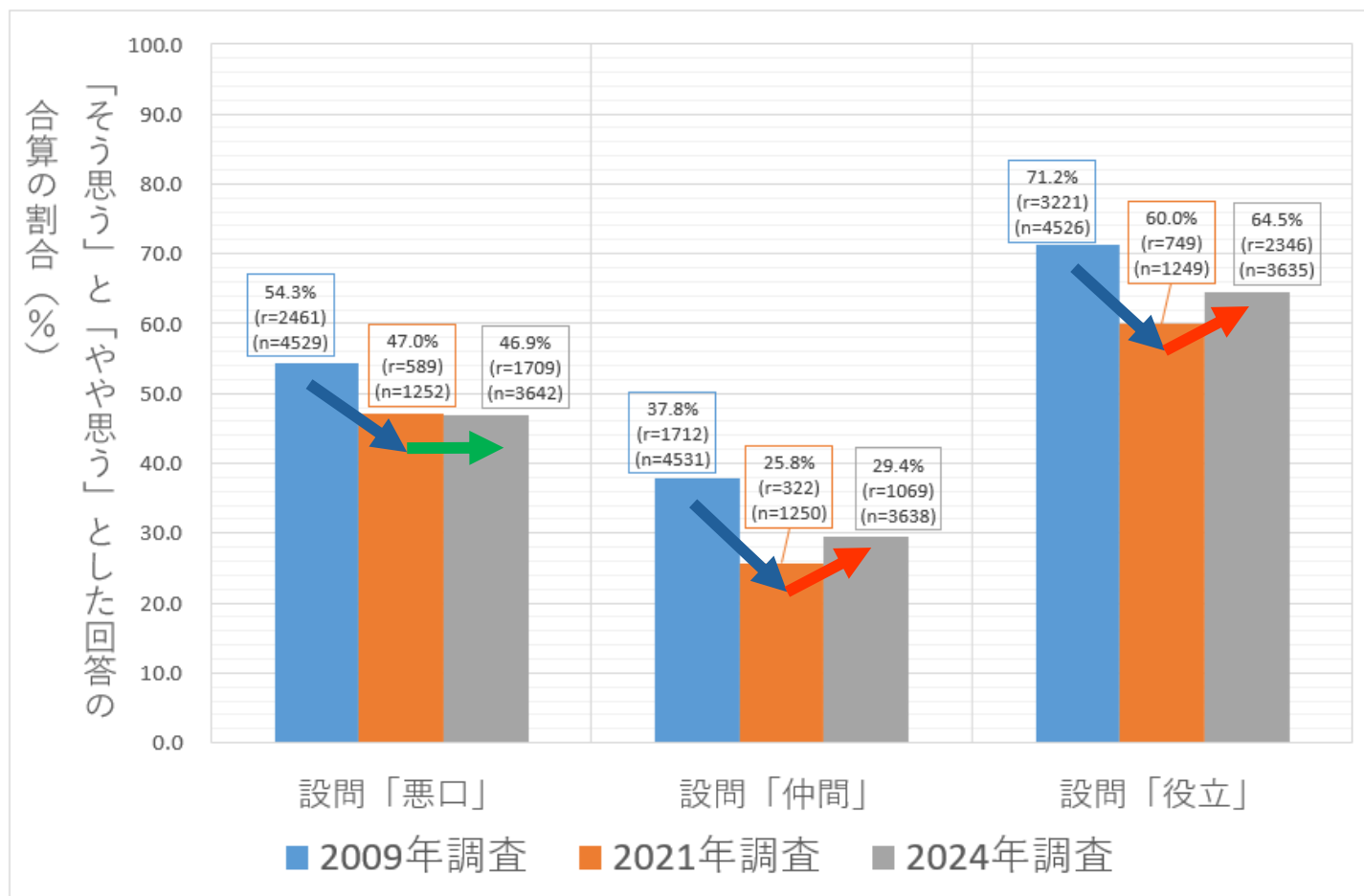
3-4 コミュニティ・モラルに関する設問の回答割合(現状)



※2024年調査の結果

3-5

コミュニティ・モラルの推移



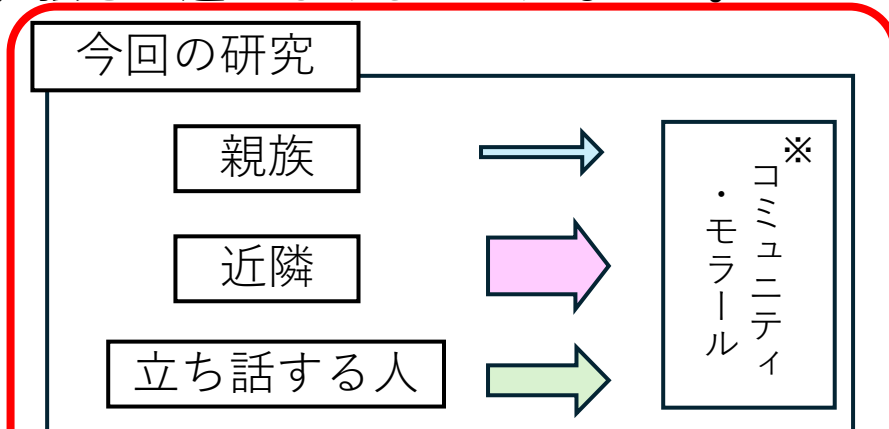
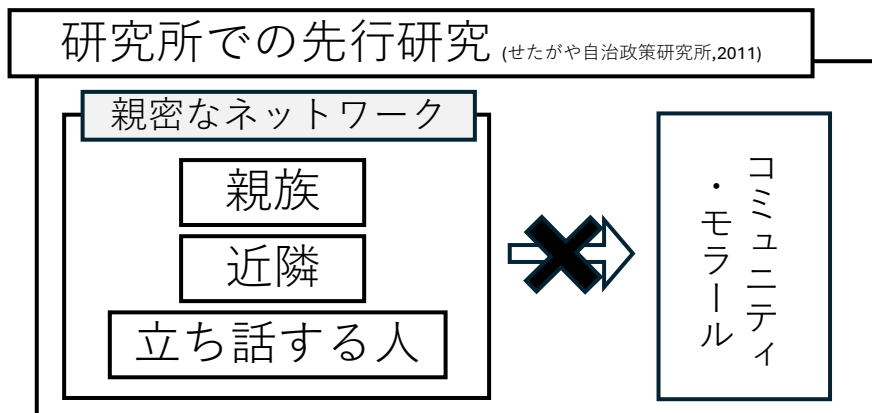
※各調査の年代を合わせるため、30～74歳までの回答に限定して集計

※各調査における各設問の「そう思う」と「やや思う」の回答数の合算を(r)、サンプルサイズを(n)とする。

3-6

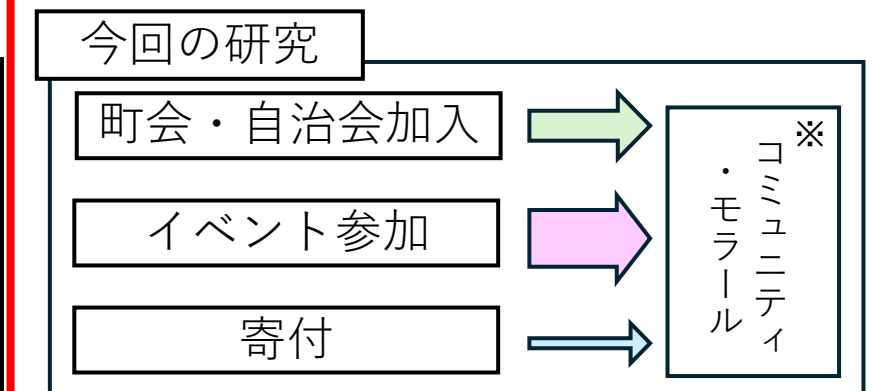
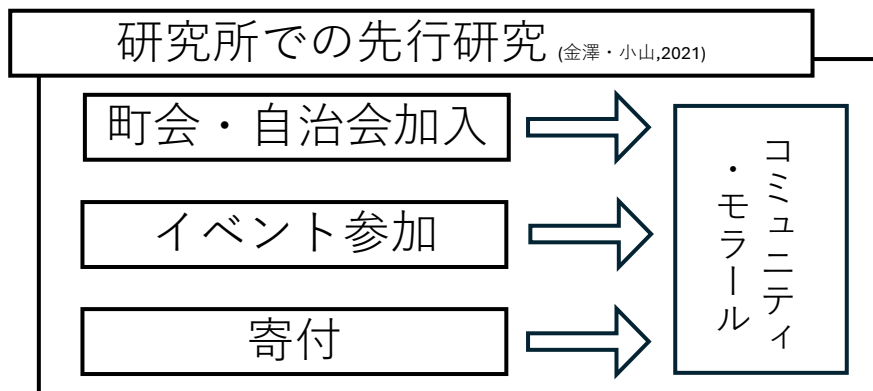
コミュニティ・モラルはどのような「人とのつながり」や「行動」との影響があるのか

- 「近隣とのつながり」とは影響があり、強さの違いもあるのではないか。



※設問を個別に分析

- 「行動」ごとに影響力の強さの違いがあるのではないか。



※設問を個別に分析

⇒影響の有無の確認や強さを比較するため、重回帰分析を行う。

3-7 分析結果

「人とのつながり」に関する設問	設問①「悪口」		設問②「仲間」		設問③「愛着」		設問④「役立」	
	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値
日ごろから何かと頼りにし、親しくしている親族の数	0.037		0.037		0.070	**	0.039	
日ごろから何かと頼りにし、親しくしている近隣の数	0.013		0.106	**	0.089	**	0.094	**
立ち話する人の数	0.104	**	0.184	**	0.119	**	0.131	**
家に上がって話をする人の数	-0.047	*	0.010		-0.002		0.028	
調整済みR2乗値	0.014	**	0.085	**	0.049	**	0.051	**

「行動」に関する設問	設問①「悪口」		設問②「仲間」		設問③「愛着」		設問④「役立」	
	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値	回帰係数	p値
町会・自治会への加入	0.035		0.057	**	0.042	*	0.005	
地域のお祭り・イベントへの参加	0.133	**	0.205	**	0.194	**	0.213	**
ボランティア、NPO、市民活動団体への加入	-0.032		0.030		0.022		0.099	**
NPOやボランティア団体への寄付の経験	0.089	**	0.064	**	0.070	**	0.111	**
ふるさと納税(他の自治体を含む)の経験	0.019		0.028		-0.061	**	0.037	
調整済みR2乗値	0.040	**	0.100	**	0.076	**	0.151	**

** p < .01, * p < .05

3-8 分析結果のまとめ

目的①：コミュニティ・モラルの現状と推移を客観的に確認すること

→仲間意識(仲間)や参加意欲(役立)については、コロナ禍にあった2021年調査時点と比較して2024年調査時点では僅かに回復。

目的②：そもそも、コミュニティ・モラルは区民のどのような「人とのつながり」や「行動」に影響されているのか

設問のジャンル	全てのコミュニティ・モラルに関する設問に正の影響があった要素
「人とのつながり」	「立ち話をする人の数」
「行動」	「地域のお祭り・イベントへの参加」 「NPOやボランティア団体への寄付の経験」